

鳴門の
小学校

ストレス・いじめ防ごう 鳴教大 教育プログラム開始



ストレスを感じたときの反応について考える児童＝鳴門市内の鳴門西小学校

鳴門教育大学は9日、映像を授業で使い、いじめやストレスなどを予防する教育プログラム「TOPSELF いのちと友情の学校予防教育」を

鳴門市内の鳴門西、撫養両小学校で始めた。鳴門西小学校では、山崎勝之教授ら5人の指導でストレスの低減を目指す授業があった。5年生

2クラスの児童53人が「宝探し」という映像を見たあと、4〜6人のグループに分かれ、ストレスを感じたときの体の反応を話し合った。

一方、撫養小学校ではいじめ予防プログラムが始まった。5年生の32人が映像を基に、相手の気持ちや思いをくみ取り、共感することの大切さを学んだ。

予防教育プログラムは両校のほか、県内4小中学校で実施。ストレスやいじめのほか、生活習慣病や喫煙などの予防を目的に8〜12回の授業を行い、成果を検証する。